

従業員の平均勤続年数と労働生産性の関連性

Relationship between Average Length of Service

of Employees and Labor Productivity

田邊 友昭

Tomoaki Tanabe

要旨

日本企業では企業の定着性を意識する人事担当者や企業の離職率を気にする就活学生がいる。日本的雇用慣行となっている年功序列、終身雇用が崩壊したといわれて久しいが、その慣行は残っている。米国の GAF A の平均勤続年数が2~3年なのに対して、日本企業の平均は「賃金構造基本統計調査」(平成30年)によれば、男性で13.7年になる。経済成長がなく失われた10年、20年と言われる日本経済において、定着性や離職率は経営の重要ポイントではないのではないか。定着性、離職率、平均勤続年数などからこの課題を考察していく。

キーワード： 平均勤続年数 企業成長 定着率 離職率